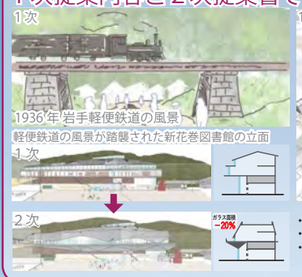
# 透明な力を生み出す、人・まち・自然／歴史と未来の共生拠点

## ―市民のプライドを高め、これからのまちを再編集する―

「雲からも風からも透明な力がそのこどもにうつれ」（宮沢賢治の詩集『春と修羅　第３集』）
賢治が生徒や農民たちに向けて語りかけたこの一文は、自然をただ美しいものとして見るのではなく、
自然の厳しさから、人間が生きる上で欠かせない「知恵」や「生きる力」を与えてくれるということが示されています。
この図書館は、その透明な力に出会い、創造力を育み、挑戦する、
隣接するなはんプラザや広場の活動と一体となって生活を豊かにする場です。
蔵書数を効率的に収蔵する「ストレージ・コレクション」が、
地域アーカイブズのネットワーク拠点となり、広場の屋根のように浮かんだ
「スカイ・ライブラリー」は、郷土の風景を走る鉄道を想起させる
新しい花巻のシンボルです。

### １次提案内容と２次提案書での変更点



- 広場に雪や雨を落とさない雪庇切・雪と雨受け
- 施工床面積、ガラス面積 20%削減
- はね出しを無理なく方杖で支持し
  全て既製鉄骨で構成しコストダウン

## 1 文化的なコモンズをゆるやかにつなぐ情報のプラットフォーム

花巻市内の各地域が持つ特色や資料、広く点在する文化をつなぎ合うプラットフォーム＝出発地点としての役割を担う図書館を目指します。中央館としては、市内全体の資料配置を整理することで、本の物流に無駄のない資料搬送を可能とし、各地域図書館の魅力を最大化します。

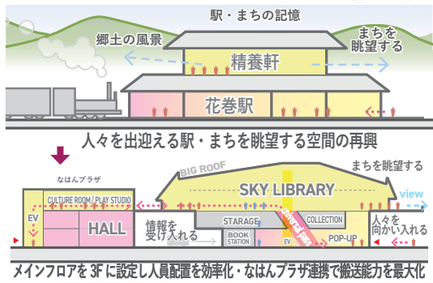
## 花巻の“これから”を担うエネルギーが連鎖する拠点

近年、駅周辺から中央通りにかけて人が集まる拠点が複数計画されています。中心商店街と駅前、それぞれの活動に新たな点が加わることで、一連のエリアとして繋がります。新図書館は、なはんプラザや広場、駅前だけではなく、これらの活動とも連携して花巻全体を活性化させる相乗効果を生み出します。

## 2 旧花巻駅の歴史を継承する新たな駅前空間と既存広場の活動を最大化する配置計画

旧花巻駅の模型写真

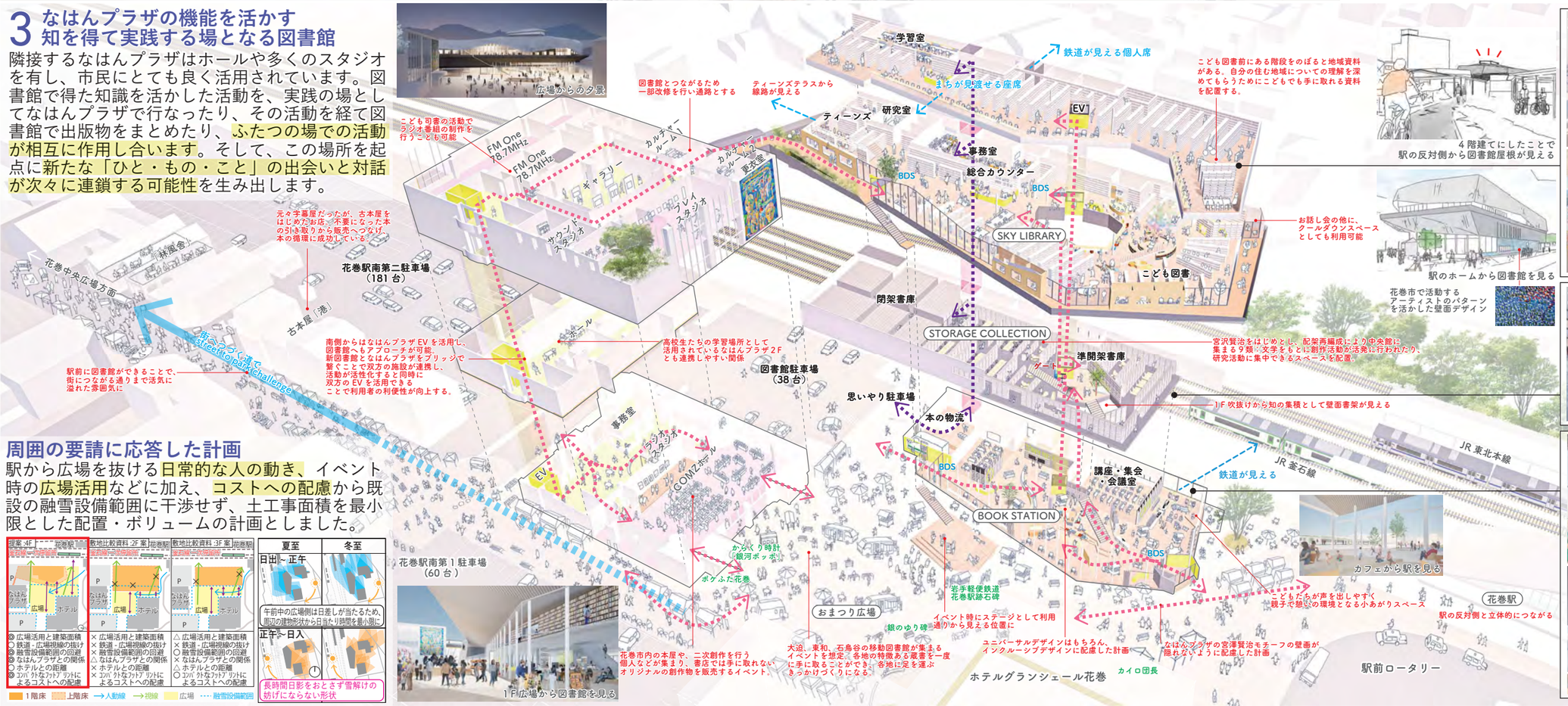
旧軽便鉄道花巻駅の１Ｆは多くの人が行き来する駅舎、２Ｆの精養軒は町を臨み滞在する空間として親しまれていました。当時の駅の記憶を継承し、１Ｆは市民が行き交う流動的空間、上階はゆったりと滞留できる空間としました。広さが必要となる諸室を上階に配置することで融雪装置に干渉することなく庇下空間を設けることが可能となり、車寄せを確保したり、広場での活動を最大化できる計画です。




## 3 なはんプラザの機能を活かす知を得て実践する場となる図書館

隣接するなはんプラザはホールや多くのスタジオを有し、市民にとても良く活用されています。図書館で得た知識を活かした活動を、実践の場としてなはんプラザで行なったり、その活動を経て図書館で出版物をまとめたり、ふたつの場での活動が相互に作用し合います。そして、この場所を起点に新たな「ひと・もの・こと」の出会いと対話が次々に連鎖する可能性を生み出します。


広場からの夕景





1F広場から図書館を見る

### 周囲の要請に応答した計画

駅から広場を抜ける日常的な人の動き、イベント時の広場活用などに加え、コストへの配慮から既設の融雪設備範囲に干渉せず、土工事面積を最小限とした配置・ボリュームの計画としました。







## 3-4F : SKY LIBRARY

4F：3Fを見下ろす

3F：カウンター前

【4F】一般図書を中心にデジタル資源、地域資料を配架します。地域資料はこどもエリアと階段でつながりエリア内にこどもも手に取れる資料を配架します。郷土愛を育む空間は、茅葺き屋根を想起させる屋根が視線や日射を調整し、本と向き合う様々な居場所をつくります。

【3F】カウンター・事務室を中心に児童書架、一般書架・ティーンズコーナーを配置します。なはんプラザとつながり、知への探求活動の延長として連携した活用を目指します。

## 2F : STORAGE COLLECTION

準開架書庫へのゲート前

外観・１Ｆから見上げた時に体感できる知のボリューム。閉架書庫、準開架書庫を配置し、経年による収蔵冊数の増加に合わせて準開架書庫のエリアを変化させることが可能です。著作権切れ作品を使った二次創作や研究活動を想定します。

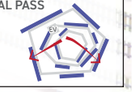
## 1F : BOOK STATION

時期に合わせて展示計画が変化

階段下から閲覧空間を見上げる

インフォメーションカウンター、新聞や雑誌の閲覧コーナーを配置します。市内のイベントに合わせた展示や、地域に関係する偉人にアクセスできる「花巻人コーナー」を設置し、市内の文化拠点への足掛かりとなるプラットフォームです。市内のイベントに合わせたポップアップや、学校との連携、地域活動の発表など、訪れるたびに変化のある場所となります。広場でのイベント時は一体での活用も可能です。

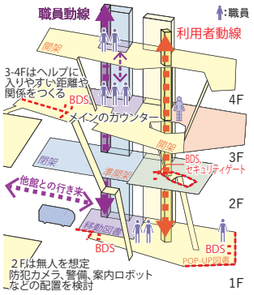
UNIVERSAL PASS



＊選定委員会からの意見（リクエスト）に対する回答

## 多層にわたる運営のシミュレーション

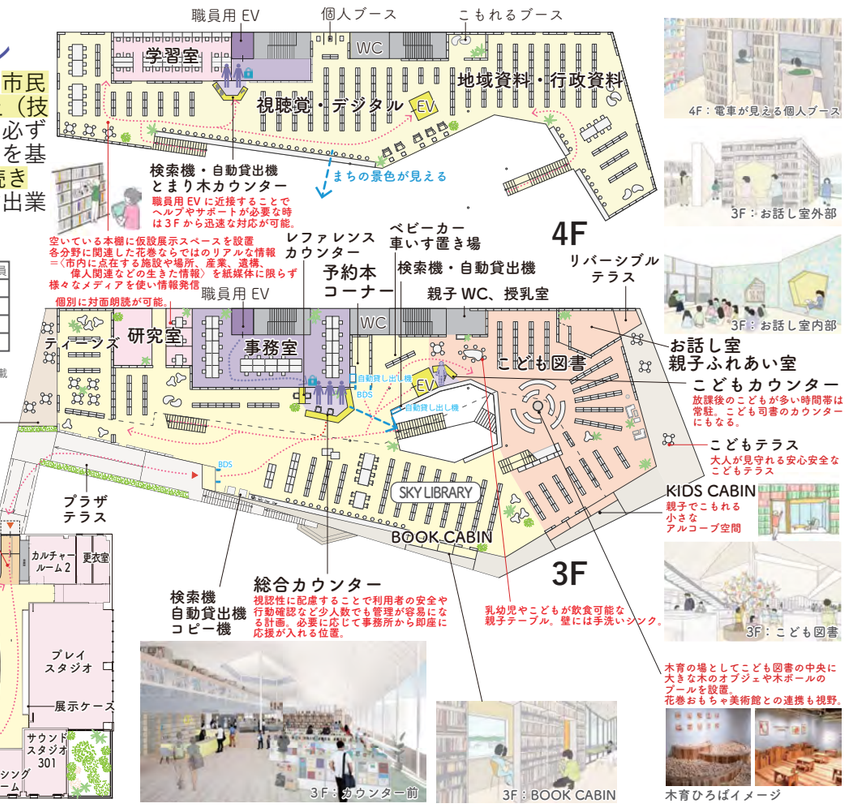
職員の心身の安全確保を最重要視し、市民と接する職員配置は必ず２名１組以上（技能の継承や責任の明確化の観点から、必ず正規職員と会計年度職員の組み合わせを基本）とし、IC タグを生かした貸出手続きのセルフ化を行い、職員は基本的に貸出業務を行わないものとします。




各階職員配置人員

| 階数 | 正規職員 | 会計職員 |
|---|---|---|
| 4F | 1 名 | 1 名 |
| 3F | 2 名 | 1 名 |
| 2F | 0 名 | 0 名 |
| 1F | 2 名 | 1 名 |

※基本構想から正職員 10 名、会計年度職員 15 名と想定し記載





4F：電車が見える個人ブース


3F：お話し室外部


3F：お話し室内部

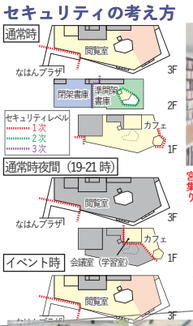

3F：こども図書


3F：カウンター前


3F：BOOK CABIN


木育ひろばイメージ

## セキュリティの考え方

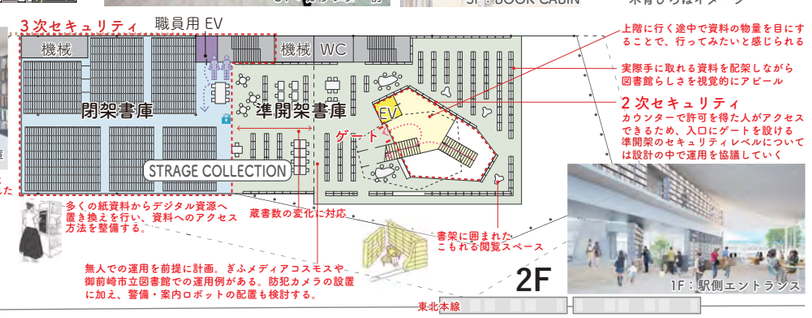


2F：準開架書庫

宮沢賢治をはじめとし、配架再編成により中央館に集まる９類：文学をもとに創作活動が活発に行われたり、研究活動に集中できるスペースを配置。

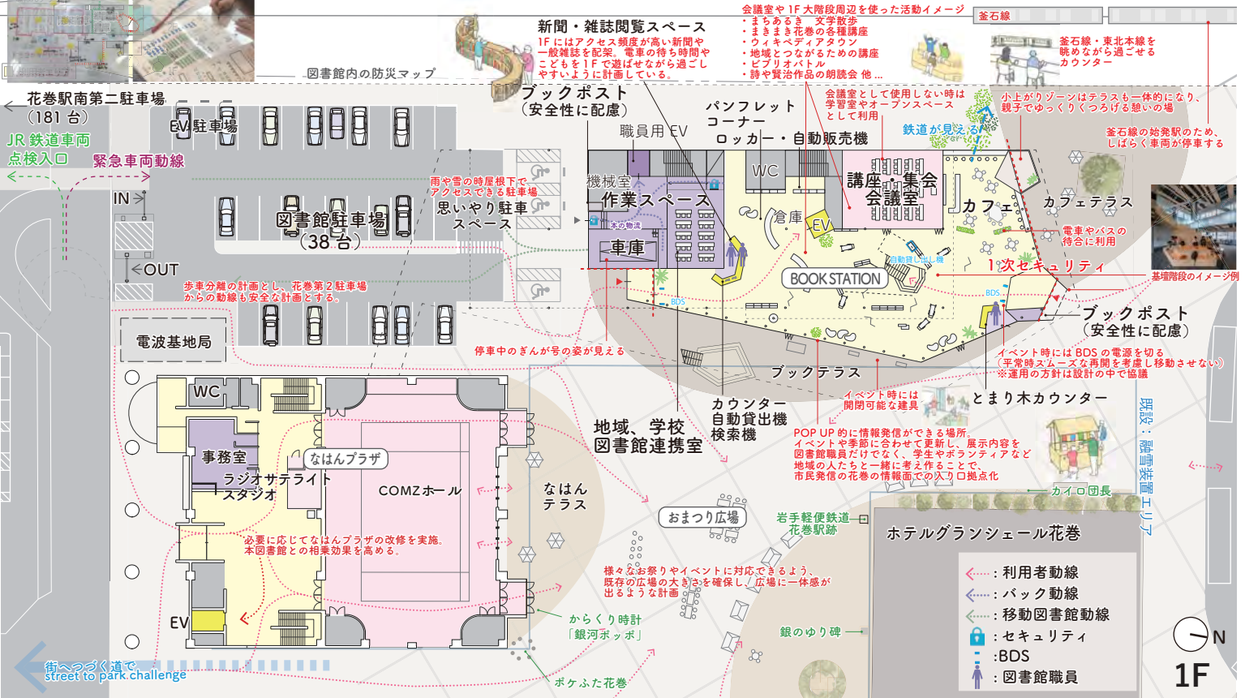
### 日常的な防災と減災 WS の取り組み

被災地の図書館の実情を踏まえた活動
日常と災害時の継ぎ目をなくすフェーズ
フリーな視点で計画



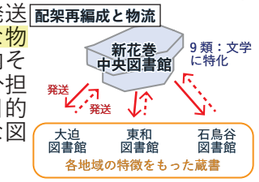


1F：駅側エントランス




## 4 中央館の運営と役割 効率的な物流と配架計画

中央館の計画にあたり、市内４図書館の蔵書・配架計画の再編を提案します。大迫、東和、石鳥谷図書館は地域の特性を活かし、中央館には年月が経ち利用頻度が低下した９類：文学を集めます。２Ｆの二次創作活動（準開架書庫を中心に配架を想定している著作権切れ作品を活用）との関連性も高く、また他館からのリクエストに対しては中央館から直に他３館へ発送できるなど、シンプルな物流計画が可能です。市内それぞれの図書館で役割分担を明確化することで、目的に合わせた活用が可能な図書館連携を目指します。



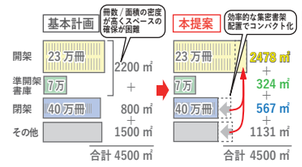
3F：こども図書から４Ｆ地域資料を見る

3F：ティーンズコーナー

### 図書館 DX を活用

最先端の DX 技術を活用することで、図書館業務を再度見直し、職員の負荷軽減を図ります。また、大部の紙資料からデジタル資源へ置き換えの合理性が高いものを置き換え、有料データベースの導入など従来の図書館資料を見直し、さらに市内の文化拠点の横断検索を可能にするため「データ連携基盤」（デジタル庁）の構築を提案します。市内の文化的なコモンズへ容易にアクセスが可能となるなど、市民サービスへの活用も検討していきます。

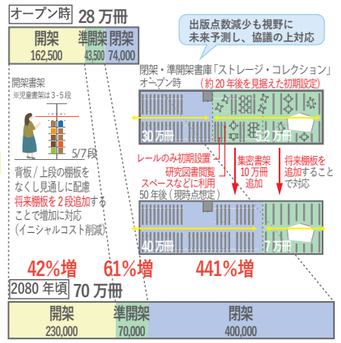
## 5 収蔵量の効率化と面積の適正化による再配分 50 年後を見据えた成長する図書館




50 年後を想定した蔵書数 / 面積は、156 冊 / ㎡と高密度の図書館になるため、シンプルでコンパクトな「ストレージ・コレクション（収蔵能力 527 冊 / ㎡）」＝「収蔵効率が高い平面形状の閉架・準開架書庫」とすることでメリハリをつけ、全体としてはゆとりを持たせた図書館を実現します。上層階の図書館メインフロアへアプローチする中で、圧倒的な蔵書数とコレクションの多様さに触れられる、わくわくする空間体験を提供します。

### 20 年後を見据えた初期実装の検討

物価上昇が著しく、厳しい予算のなか、初期投資を抑え、空間の有効活用をするため、段階的に整備する設えとしての計画を提案します。約 20 年後を見据えて初期設定し、棚板や集密書架の増設（レールは初期設置）など、容易に将来対応が可能な計画としておき、開館から約 20 年は準開架書庫の一部を利用し、研究や二次創作等の空間を充実させます。出版点数の増減実況を注視しながら、未来予測をしていくことで、無駄のない市財投資をしていく計画とします。
※設計の中で協議の上決定します。




## 6 文化的なコモンズへの出発地点 過去・現在・未来をつなぐ BOOK STATION

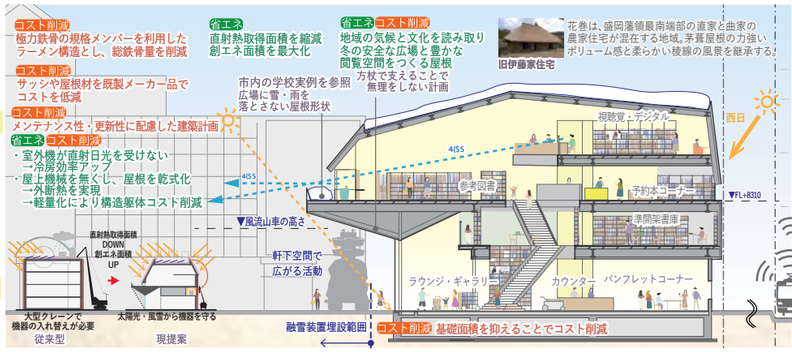
広場とつながる１Ｆの空間は図書館の入り口であると同時に、地域文化や歴史への出発地点でもあります。花巻にゆかりがある郷土の先人 200 名とその後の新たな先人 100 名、現在活躍中の未来の先人 200 名の合計 500 名を対象とした「花巻人ライブラリー / アーカイブズ」を設けることで、市内外の関係機関と連携します。書籍だけでなく、作品の出張展示（レプリカ含む）など実物に触れられ体験できる場となります。資料は最終目的ではなく、市内外に一歩踏みだすためのきっかけと出会う、文化的なコモンズへの入り口となります。

1F：エントランス

1F：BOOK STATION と 3,4F：SKY LIBRARY

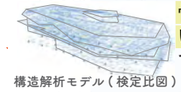
## 7 花巻の環境に呼応した断面計画 資料と活動を守る大きな外断熱ルーフ

ZEB Ready を確実に達成し、その先を見据えた未来の世代にとって、より居心地の良い環境建築を目指します。本の大敵である日射を西側開口の制限や屋根形状で制御しながらも、比較的影響が少ない位置に開口を設けることでまちや広場に開かれた空間とします。２階に屋外機械置場を設けることで、屋上の設備機器設置面積を最小化し、オーバーハングした大きな南向き屋根面を乾式外断熱化することで、太陽光パネル設置可能面積を最大化します。創エネ状況の見える化と同時に、地産地消を目指すバイオマスエネルギー活用の検討など、楽しみながら環境や地域の循環を学べる実践知の場としての在り方も検討します。



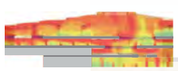
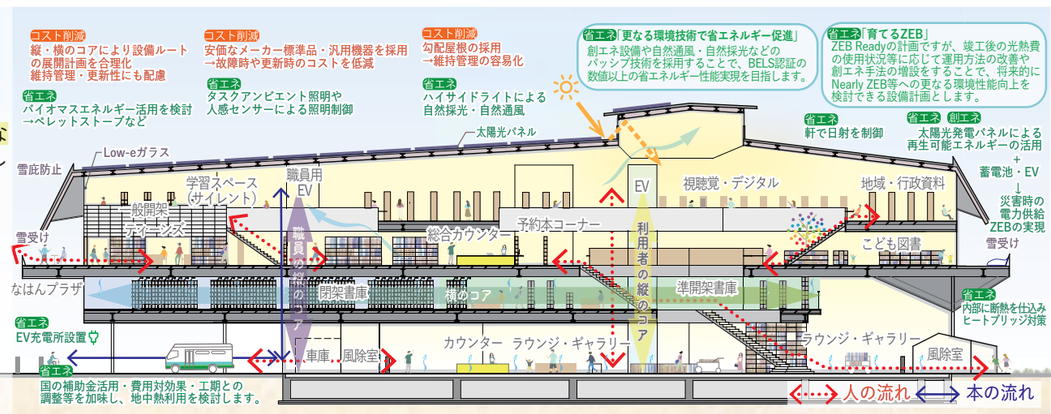

### 構造計画

軽量な鉄骨ラーメン構造は耐震や基礎への負担が少ない計画です。屋根の多面体や片持部の方杖の効果で鉄骨量の少ない形式としています。


構造解析モデル（検定比図）

### CFD 解析による空調性能検証

大屋根や吹抜等の建築計画は省エネの最も大きな装置。熱環境では図書館運営を念頭に置いた解析により具現化を図る。


熱環境シミュレーション